

## 2021年度 プロジェクト研究所業績報告書（中間報告）

プロジェクト名	分野横断によるセルフアセスメントツールの開発研究
研究所名	実践女子大学セルフアセスメントツール研究所
設置開始	2018.4.1
設置終了	2023.3.31

### ■研究の進捗状況（研究員の活動実績含む）

#### 2021年度前期

- 大学教育学会 43 回において、自由研究発表を行った（大塚・三田）。オンラインではあったが、Zoomによる双方向型口頭発表であったため、質問を受けたり、総括に参加することができ有意義であった。
- spod フォーラムにおいて、オンデマンドセッションでのポスター発表を行った。オンデマンドのため対面型のような意見交換は叶わなかったものの、他大学教員からコメントを得ることができた。
- spod フォーラムに 2 名の教員が参加し、ルーブリックをはじめとする学習評価方法についての学びを深めると共に、他大学の参加者との交流を深めることができた。
- 教員研究員の担当科目において、事前・事後（一部科目は片方のみ）に自己評価ルーブリック調査を実施した。
- 汎用ルーブリックの作成を念頭に、共通教育科目「実践入門セミナー」について、生活科学部食生活科学科全クラスと短期大学部日コミ、英コミ各 1 クラスとの間で事前・事後調査を実施した。
- 2 科目について個別報告書を作成し、個々の学生に対してフィードバックを添えて返却した。

#### 2021年度後期

- 教員研究員の担当科目 13 科目において、事前・事後（一部科目は片方のみ）に自己評価ルーブリック調査を実施した。
- このうち 2 科目で個別報告書を作成し、manaba コースで個々にフィードバックを行った
- 2022 年度の延長申請が承認されたため、2022 年春期の大学教育学会研究発表に応募した。（採否通知は 3 月末頃）

### ■現在までの達成度

研究所設置申請書記載の計画を抜粋し、進捗と達成度を以下にまとめる。（2020 年度末までに達成済みの内容は、詳細を割愛する）

#### ①最も有効なセルフアセスメントツールの選定と検証

→2019 年 3 月達成度自己評価 100%（前年度達成済）

#### ②科目ルーブリックの開発と精度向上

→年度達成度自己評価 90%、全期間達成度自己評価 90%

・2021 年度の実施により、特に DP およびシラバス記載の到達目標との関連づけにより、学生が DP への理解と関心を一層深めることができた。

### ③汎用ルーブリックの作成と改良

→年度達成度自己評価 90%、全期間達成度自己評価 90%

・2021 年度は学科を超えた検証を行うことができた。

### ④ルーブリックの体裁や授業への導入方法、学生からのアクセシビリティの検討

→年度達成度自己評価 100%、全期間達成度自己評価 90%

・両キャンパス共に LMS を利用した調査が定着し、LMS 対応の調査票フォーマットに切り替えて開発が進められた。

### ⑤携帯端末で操作できるルーブリックアプリを開発する。

→アプリの開発は断念し、④と統合して研究を進める。

### ⑥課題ルーブリックの開発と精度向上

→年度達成度自己評価 50%、全期間達成度自己評価 80%

2021 年度は前期後期共に初期に感染状況が悪化した関係で、「課題」につながる活動の実施が思うように行えなかった。

## ■次年度以降の研究（見込み）

### 科目ルーブリックの開発と精度向上（継続）

学生インタビューを踏まえたチューニングを実施し、ルーブリック調査票の改良と調査の実施、結果の集計・分析を行う。

### 汎用ルーブリックの作成と改良

共通教育科目「実践入門セミナー」のルーブリックについて、学科特性をふまえた評価観点の再調整を行った上で、複数の学科で導入して改良を重ねる。

### ルーブリックの体裁や授業への導入方法、学生からのアクセシビリティの検討

研究所設置期間終了後、学生のアクセシビリティを考慮しつつ費用を掛けずに実施可能な調査方法を最後の 1 年で確立する。

### 学会等における研究成果の発表と、国内外でのネットワーク構築

最終年度の総括を行うべく、教育系の学会、各研究員所属の専門分野における学会等での発表を行い、有益な意見を得る。また学外機関とのネットワーク構築を進め、情報収集を行う。

## ■研究活動における成果

(1) 研究成果（雑誌、学会発表、図書等）

1. 大塚みさ・三田薫「コロナ時代の授業における自己評価ルーブリックの可能性—コロナ時代前との比較を通して—」, 大学教育学会 43 回 自由研究発表, 2021 年 6 月 (Zoom による口頭発表)
2. 大塚みさほか「ポストコロナ時代の ICT 駆動型自己評価ルーブリック開発」, SPOD (四国地区大学教職員能力開発ネットワーク) フォーラムオンデマンドセッション (動画による発表), 2021 年 8 月
3. 大塚みさ・三田薫・松島照彦・白尾美佳「自己評価ルーブリックに見えるディプロマポリシーの認識—専門領域の違いを通して見えてきたこと—」, 大学教育学会 2021 年度課題研究集会 (ポスターセッション), 2021 年 11 月 (オンラインポスター発表)
4. Otsuka, Misa. and Mita, Kaoru. 'The Potential of Self-Assessment Rubrics as a Self-Assessment Tool: The Effects of Reflection by Employing an Individual Report', The 8th Asian Conference on Education & International Development (ACEID2022), 2022 年 3 月 (オンラインポスター発表)

(2) 学生・生徒の教育及び支援に関する還元

科目ルーブリック

前期 15 科目、後期 13 科目で調査を実施し、適宜学生へのフィードバックを行った。このうち 4 科目で個別報告書を作成し、manaba コースで個々にフィードバックを行った。DP への関連付けを意識した科目も多かったため、学修ルーブリック回答時の参考になったことと期待される。

学修ルーブリックの回答はもとより、直後に迫る就職あるいは編入学の面接における自己アピール題材として有効な情報提供が行えたと考えられる。